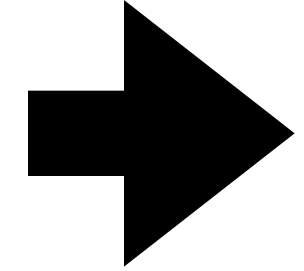


# 2021年过去问特色课

## 名词解释

程归航 2021/01/09

- 名词解释
- 小论文（论述题）



- 解释定义：～とは～である
- 具体例：それぞれの要点を挙げて説明する
- 总结：以上のように

ロジカル

# 名词解释

- 300～400字
- 1. 提出：誰 どこ 何年 何のために
- 2. 核心内容：具体的な説明
- 3. 分类，原因，意义，总结

# 知識ギャップ仮説

- 社会経済的地位の違い→知識の獲得時期や獲得能力に差が生まれる
- 広範な伝達能力を持っているマス・メディアによって報道されたニュースであっても、ニュース情報がある人々には多く普及して、よく知られているのに、他の人々の間では普及率が低いということがある。

このような差異は、いくつかの研究によって、社会・経済的階層や教育程度別にニュース情報に関して、知識ギャップ(Knowledge gap)が存在していることが明らかにされてきた。

# 知識ギャップ仮説

- 知識ギャップの減少に関しては、情報を送り出す期間が長ければ長いほど、知識ギャップは減少するであろうとしているが、ニュースバリューの大きいニュースの場合もこの知識ギャップは減少する。
- 例：ケネディ大統領の暗殺事件のように、非常にニュースバリューの高いニュースの場合には、極めて短期間のうちにほとんど100%の人々に普及するわけであるから、知識ギャップは存在しなくなる。

# 知識ギャップ仮説

- テレビの登場、インターネットの普及

→知識ギャップ仮説を取り巻くメディア環境に大きな変化をもたらしている。

- 認知的スキーマ

物事を認識する枠組みのこと。

# デジタルデバイド 情報格差

**核心** インターネットに代表される情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる様々な格差を表す。

**原因** アクセス（インターネット接続料金、パソコン価格など）と知識（情報リテラシーなど）

**意義** あらゆる集団の格差を広げてしまう可能性を有しているため、その解消に向けて適切に対処しないと新たな社会・経済問題にも発展しかねない。他方、デジタル・デバイドを解消し、ITを普及させることは、政治的には民主化の推進、経済的には労働生産性の向上、文化的には相互理解の促進等に貢献すると考えられる。

2018年度大学院入試問題（2018年2月15日実施）

新聞学 専攻 領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目： 第1外国語（日本語）

試験時間：（60）分

次のテーマについて、思うところを書きなさい。

「格差社会」

ジャーナリズム 次の2問のうち、1問を選択して、解答しなさい。

1. 近年、世界各地で生じてきた「ポピュリズム現象」に関して、ソーシャルメディアの普及と社会の分断化という傾向に関連させながら論じなさい。
2. ジャーナリズム論における「批判的言説分析」の有用性に関して論じなさい。



# オピニオン・リーダー

**コア** マス・メディアとパーソナル・コミュニケーションの仲介役として、中心となる人物がオピニオン・リーダーである。彼らは、特定の領域について、強い関心や豊富な知識・経験を持ち、オリジナルの情報に積極的にアクセスし、その情報を周囲の他者に広く伝播し、影響を与えている。

**二段階:** オピニオン・リーダーという概念は、P.ラザスフェルドによって、彼の著書である「ピープルス・チョイス」の中に提唱された概念である。つまり、マス・メディアを通じて提供される情報が、直接すべての視聴者へ流れるのではなく、まずある中心となる人物に到達し、彼らを媒介にパーソナルな接触を通じて更に周囲の人に広まっていくという発見を「情報の二段階の流れ」という仮説である。

# 沈黙の螺旋理論

**提出** ドイツの政治学者ノエレ・ノイマンが1966年に提唱した理論である。

**阐释** 人々は一般に社会的孤立を恐れるものである。したがって、人々は、自分の意見が多数派に属するか、あるいは社会に広く受け入れられると確信するならば、自分の意見を公的な場で表明する傾向が高くなる。他方、それとは逆の状況にいると感じるならば、その人は自らの意見を公的な場で表明する傾向が低くなる。

**核心** こうして、自らの意見が少数派に属すると判断した人々は、次第に意見を公表しなくなり、沈黙の螺旋が増幅しながら進展する状況が生まれる。それによって、社会における支配的意見、あるいは支配的世論が形成されていく。

**原因** 人々が自分の意見が多数派・少数派のいずれに属するかという判断を下す基準を提供するのは、多くの場合、マス・メディアである。したがって、マス・メディアの効果・影響がきわめて強大だと言える。

# ニュースバリュー

**阐释** 社会で生じる出来事について、それをニュースとして報道する価値があるか否かを測る基準である。

**核心** 社会の多くの人々の利害に関わる、あるいは関心を持つ出来事。

**決定者** 主に広告主とスポンサーからの収入を必要とするために、視聴者を獲得することがメディアにとっては非常に大事である。よって、ニュース・バリューは視聴者に迎合する巨大なマス・メディア組織の市場指向によって決定されている。

# ゲート・キーパー

**阐释** 社会の出来事がマス・ディアを通じて、ニュースとして発信されるまでに、様々なゲート(関門)があり、そこにゲートキーパー(門番)がいる。

**核心** ニュースとして発信していいもの、とそうでもないものが分けられ、全てのゲートが通過したものだけがニュースになれる。

**意義** ゲートキーパーによる一連の工程は、我々の生活や我々を取り巻く世界を定義づけ、最終的にはすべての人々の社会的現実に影響を及ぼす。

**主体** 「編集・整理」を担当する編集者とみなされる人々がゲートキーパーと呼ばれることが多かった。



# ゲート・キーパー



ゲート・キーパーには、記者・編集者のみならず、マス・メディア組織の経営者も含まれている。これらのゲート・キーパーたちは自ら抱えている価値観(つまりニュース・バリュー)によって、ニュースの取捨選択を行う。また、マス・メディア外的プレッシャー(警察の要請によって自粛すること、広告主の意図に配慮すること、社会的価値観に準ずることなど)に拠ることも、ニュースの取捨選択が行われる際、配慮に入れられるものである。

**总结** 換言すれば、様々な社会的出来事のうち、何がニュースとなり何にならないかを説明する理論として ゲートキーパー理論がある。

# メディア・フレーム

**核心** ニュースが何を選択、強調、排除するかということに関する一貫した枠組みである。

**阐释** 送り手はこの枠組みを通して社会の出来事を報道し、受け手はその報道に大きく依存し、頭の中で社会を構成する。

**意義** マス・メディアないしジャーナリストは、個々の社会出来事に関する報道、解説、評論を通して人々を影響を及ぼす。それと同時に、(多くの場合無意識のうちに)支配的な価値観やイデオロギーを伝達する。人々はそうした価値観やイデオロギーを(多くの場合無意識に)受容することを通して、結果的に既存政治社会システムの安定の維持に参加している。

# メディア・リテラシー

リテラシー(literacy)：読み書き能力

**定義** メディアのあり方を社会構造のなかにおいて理解し、メディアの提供情報を読み解き、メディアを使いこなすための能力のこと。

**核心** 提供情報の表面的な読み解き方だけではなく、メディアの構造・特徴・情報送出の仕組みから、その社会的機能や責任、その内包する諸問題までの人々による理解度を向上を目指す。

- ① テレビにおける娯楽番組過剰の危険性
- ② メディア的事実と社会的事実の違い

# メディア・イベント

**コア** メディアは、視聴者さらに国民のイベントへの参加を促し、あるいはそれを予測・期待して、イベントを企画する。いくつかの（テレビ）ネットワークが、一致して同じイベントを放送することによって、視聴することの価値が強調され、視聴を義務とする感覚が強められる。

## 分類

- ① 戴冠型：元首や皇族などの戴冠式や結婚式
- ② 制覇型：人類が大飛躍を遂げたこと
- ③ 競技型：一定のルールに従って勝利を競う



# メディア・イベント

**意義** メディア・イベントを通じて人々は国民的アイデンティティを形成し、ないしは再生産する。これによって、メディア・イベントは政治・社会の統合に大いに寄与する可能性を確かに持つ。

→ 「主観的現実」の変化が「客観的現実」の構築や構成に影響を及ぼす。

# CNN効果

**媒体** CNN 効果を与えるメディアは、CNNをはじめとする、リアルタイムで報道する国際的なニュース組織である。CNN 効果を考える際に重要となるメディアはテレビであるが、新聞もCNN 効果に貢献する重要なメディアである。

**阐释** CNN 効果はメディアが政府の外交政策に及ぼす影響力に関する仮説であり、特に冷戦終結以降のメディアと政府の外交政策の関係を論じるための理論仮説である。

**核心** 外国の衝撃的な出来事が報道され、世論が喚起されることなどを通じて外交政策に「一定の影響」を及ぼすことだといえる。

# 文化帝国主義

**コア** 文化帝国主義、つまり文化やマス・メディアの分野で起こっている帝国主義的支配について考察しようとするものである。「先進国の文化、特に資本主義の象徴であるアメリカ文化の流入によって、主に発展途上国の地域文化、伝統文化が破壊されたり、あるいは文化的自律性、独立性が奪われたり、また文化的に支配されたりする可能性、さらにその推進役としての多国籍企業とマス・メディアによる経済的、文化的支配の過程」である。

**方法** 一般に非軍事的な間接的な支配、特に文化やマス・メディアによる、あるいはそれらを通しての巧みなコントロール、操作、時には半強制的な押しつけや影響を指している。

# 文化帝国主義

**解説** グローバリゼーションとグローバルな資本主義の枠組みのなかで、その経済的・政治的なシステムの拡大と「文化」やコミュニケーションのギャップから派生する、様々な矛盾・軋轢(あつれき、摩擦)・衝突等を総合的に表すコンセプトである。

# 出版資本主義

- 15世紀中頃、グーデンベルクが可動金属活字と新たな印刷機を発明した。いわゆる「グーデンベルク聖書」が現れた。
- 印刷された言葉は、多様な言語の間に交換とコミュニケーションの統一的な場を提供したのである。このような統一的な場の形成は、国王に従属する中央機構を備え、領域性と主権性を有する絶対主義国家の成立をうながす基盤を提供した。
- コミュニケーション革命と出版資本主義の進展が、18世紀以降のヨーロッパの国民国家の発生をうながした。すなわち、それらが「国民的アイデンティティ=ネーションの創出」を生み出す重要な要因となった近代の国民国家の構成員は、イメージとして心に描かれた想像の政治共同体の中で「国民」となるのである。

# 想像の共同体

- ベネディック・アンダーソン 『想像の共同体』

アンダーソンは、ナショナリズムの歴史的な起源について考察するために国民国家が成立する以前の段階に着眼し、宗教的共同体と王国が社会の組織化のために果たした役割を指摘する。国民とは、これらのシステムが衰退するにつれて登場した新しい共同体であり、これを推進したのは資本主義経済の成立、印刷を通じた情報技術の発展であるとアンダーソンは論じている。



# 想像の共同体

- 国民共同体への想像力を喚起するうえでもっとも重要な媒体となったのが出版言語だと
- 出版資本主義により出版言語が登場することで、口語俗語では相互理解が不可能だった人々の間でのコミュニケーションが可能になった。

**意義** ネイションとナショナリズムが近代性の産物であり、政治的および経済的目的のための手段として創られたとみなす。

# 言説分析

**解説** 言説とは、一群の信念や態度と定義できる。ただし、そうした信念と態度は、ある特定の社会・文化的文脈の中に埋め込まれ、文化的 実践によって具体化される。文化的実践は、アイデンティティの形成 や社会参加を生み出す方向に作用するものである。

**コア** 言説分析はマス・メディアのテキストを取り上げ、テキストの生産過程と消費過程を注目しながら、それがあある特定の歴史的且つ社会的文脈の中で定義づけられ、意味づけられる過程の分析を試みる。権力、アイデンティティ、更にイデオロギーといった概念と連動しながら、メディア批判、社会批判の研究を行う。



# 言説分析

**意義** この作業を通じて、ニュース・テキストの中でいかなる価値観が優先され、あるいは逆に排除されているのかを探り、その結果明らかになった支配的価値観という構造と、テキストや言説の実践との関連について考察が行われることになるのである。

# 敵対的メディア効果

**提出者** ロバート・ヴァローネらが実験を元に1985年に提唱した理論である。

**核心** 受け手が事前に強固な態度を持ってメディア報道に接した時、その報道を自分の態度と反対方向に偏っていると認知する一般的な傾向を指す。

**領域** 日本では「敵対的メディア認知」とも呼ばれ、主に政治報道などで用いられる。また、人々はマスメディアの情報や意図をしばしば疑うという意味合いでも用いられる。

# 敵対的メディア効果

